

きらボ通信

第2号 (2009年4月)

明星大学ボランティアセンター (愛称: きらきらボランティアセンター)

特集1: 青梅のまちづくりと学生ボランティア活動 特集2: 学生ボランティア活動に期待するもの

環境ボランティア活動に興味のある学生諸君へ

日野校 副センター長 吉澤 秀二
(理工学部環境システム学科教授)

明星大学構内で行われている環境ボランティア活動として、ビオトープ作りを目指した、湧水周りの整備があります。季節になると湧水に飛ぶ蛍は、DNA 分析の結果、とても貴重な固有種であることが分かっています。Idear 研究会を中心とした、「エコキャップ運動」は、ペットボトルのキャップを集めリサイクルし、海外の子供達にワクチンを提供する活動です。今までに、数十人分のポリオワクチンを届けることができました。また、明星小学校と連携した落ち葉堆肥の製造と、小学生と協力しての、小学校の農園への堆肥の散布なども始まりました。構内のボランティア活動で自信をつければ、次は学外での活動になります。

学外では、緑の保全が中心になります。森林の元気を回復するために、酸性雨によって酸性化した土壌に、アルカリ性の炭の粉をまきます。高尾山の国有林の松50本の根元に、約500kgの炭をまく活動に、エコ・ネットワーク八王子や市民の方々80名と連携しました。八王子市堀之内地区の里山管理活動に、東京都環境局、

NPO 里山農業クラブと連携して参加しました。東京グリーンシップアクションとして、八王子市館町緑地保全地域での活動にも、東京都環境局、(株)荏原製作所、池の沢に蛍を増やす会と連携して参加しています。今後は、小学校での環境教育プログラムも予定しています。

学生諸君がボランティア活動を通して、地域社会とつながり、“おとな”の方々とのコミュニケーションの中から得た驚きの経験が、君たちを“おとな”にします。ボランティア活動に参加しよう!!



マレーシアのシブラン中学校にて (2008年8月)

特集1：青梅のまちづくりと学生ボランティア活動

青梅校のボランティア活動

青梅校 副センター長 菱山 覚一郎
(一般教育社会分野 准教授)

昨年、青梅校にもボランティアセンターが共用棟に開設されました。ボランティア情報の提供や相談を中心に、教学課と連携を取りながら活動を始めました。

ここ数年、青梅校の内外においても、地域貢献への要請や学生諸君のボランティア活動への参加意識などの高まりが感じられます。実際に青梅校でも、学生が自身の得意分野での協力や、将来の希望職種でのインターンシップ的な体験が数多く行われてきました。

ご存じのように、青梅を含めた西多摩地区には、多くの美術館や博物館があり、作品を展示・鑑賞するイベントが頻繁に開催されます。同様に、全国的に有名なマラソンの大会なども行われています。毎年、学生と教職員が、それらのイベントに参加や協力をしてきました。また、近隣の小中学校では、教職志望者が自分自身の学習を兼ねた

体験や、社会福祉施設での活動などをさせていただいてきました。実態として、青梅校では当センター設立以前よりボランティアと呼べるような地域に根ざした活動が活発に行われていました。

このように地域に密着したボランティアの活動は、地域を知るだけでなく、地域の人々の考え方や感じ方、地域社会が抱える問題に気付かせてくれます。同時に、他者と触れ合うことによって、人間形成に大きな影響を与えてくれます。ボランティアは、まさに自己実現と社会貢献の第一歩なのかもしれません。今後、青梅校の当センターでは、西多摩地区唯一の大学という立場からも、地域の様々な諸施設や団体などと連携・協働を推進しながら、要請されるニーズを学生と教職員に提供し、地域交流と社会貢献の役割を担っていきたいと考えております。

映画看板による町づくりプロジェクト

渋谷 和良
(造形芸術学部 造形芸術学科 教授)

明星大学青梅校のある青梅の町は、山と川がある自然環境豊かな景勝地であり、かつて青梅街道の宿場町で、戦前は奥多摩から採取される林業やセメント業の中継地点として栄え、戦後は昭和30年頃をピークに青梅夜具地の織物生産で活性化し、今でも古き良き時代のなごりとして古い町並みが所々に残っています。そして近年では東京都観光条例の助成を受けて「昭和レトロ」をキーワードに観光活性化による町づくりの取り組みが

始まっています。

「映画看板による町づくり」の発端は昭和の青梅の町が繁栄していたころ、この青梅駅周辺で映画館が駅前に3館もあり、旧市街は大勢の人たちの社交場として繁栄していたと聞きます。そこで住江町商店会長の横川英利氏が中心になり、何か昭和レトロにちなんだものとして、看板絵師の久保板観氏に30数枚ほど映画看板を描いてもらい、街道沿いに掲げたのがそもそもの始まりです。

前置きが少し長くなりますが、私は 2002 年の 9 月より 1 年間、文化庁在外研修員としてドイツのマールブルグという小都市に 1 年間暮らす機会を得ました。そこでマールブルグ大学の研究室をお借りして、作品制作や学生の指導の他に病院に絵を貸し出したり、市立美術館の企画を手伝ったり、地域交流の仕事をする機会を得ました。ここで大学機関が果たすべき役割について考えることが出来ました。そこで日本に帰って来た時に、我が明星大学青梅校がある青梅の町について詳しく知りたくなり、まず市役所を訪ねたことから、人間関係が広がり、いろいろなイベントに学生たちと参加することになりました。

毎年 11 月の中旬に行われる青梅宿アートフェスティバルに空き店舗をかりて、展覧会を開催したり、青梅マラソンのポスターを明星大学の絵画コースの学生が描いたり、徐々に関係が出来上がってきました。

そのような状況の中で、今年の 1 月からご病気の久保板観氏に代わり、明星大学造形芸術学部の有志 39 名が、まず 4 月までに 58 枚、そして 10 月から 12 月までに 21 名の学生が 30 枚、合計 88 枚の映画にまつわる看板制作が行われました。これは通常授業外の制作なので、放課後や学生たちの春休みを返上しての過酷な作業になり、学生たちはもちろんのこと協力してくれた実習指導員を含め、みんなの力が一丸となって成し得た賜物

であると実感しています。この映画にまつわる看板制作で特に難しかったのは、題材は著作権がフリーになった 50 年前の映画であることや、肖像権を主張する俳優の顔は使用出来ないことや、また更に学生各自が担当した店舗の職種にちなんだ看板=映画が必ずしも見つからなかったり、描いてはみたものの、クライアントである店主から OK をもらえず、かき直しを何度となく強いられたりして、半ベソをかいて描いている学生もいたようです。また、私も春休みは食堂が閉鎖中なので、カップラーメンやサンドウィッチの差し入れをして彼らを応援し制作指導をしました。

このプロジェクトの収穫として大変良かったことは、学生自らが制作した看板が何年にもわたって多くの人に見てもらえる機会に恵まれたことや、何よりも店主に気に入ってもらい、制作を通じて人の役に立つ達成感を味わえたこと。映画と自分の技量とでご年配の方とのコミュニケーションが出来たことなどがあげられます。

明星学苑の創業者である児玉九十先生の「体験教育」の理念をまさに実践し、通常の授業では味わえない貴重な体験だったことを学生たちは実感していると思います。得意に帆を揚げ、学生諸君の可能性に乾杯！

そして関係者の皆様方、最後まで暖かく見守ってください有り難うございました。心より感謝致します。

2度の看板制作を経て

梅津 悠一

(造形芸術学部 造形芸術学科 3年)

私は2回の青梅市看板制作に参加しました。1回目の参加希望者を集めていたのは2年生の冬で、1回目の看板を描き終えてからわずか半年後に2回目の参加者招集がありました。1回目に参加した時は、こんな短期間で2回も描くことになるなんて思いもしませんでした、どちらも参加

した理由は同じで、自分が描いた看板が街に飾られたら、学生時代に努力したものが形となって何年も残る。そして、それをたくさんの人に観てもらえるのだと考えたら参加せずにはいられなかったのです。

大きな期待とやり甲斐を感じながらの制作で

したが、不安と苦悩もかなりありました。何故ならそれは学校の課題ではなく依頼者がいて、その人が求める絵を描き上げなくてはいけないもの、つまり絵を描くことを「仕事」としなくてはいけないからです。普段何気なく描いている絵が、仕事として描くことになる。このプレッシャーは今まで味わったことがないものであり、作業中もずっと重く押し掛かってきました。

特に大変だったのは、依頼主との話し合いです。自分がいくら原画や看板を頑張って描いて提案しても、相手側の求めている絵と違ったら、全てやり直さなくてはなりません。1回目に私が担当したお店では出来上がった看板を見てから、人物の着ている服がやっぱり違う色の方が良かったと言われてしまい、ちょっとした揉め事になりました。結局は依頼主に納得してもらうことができ、なんとか事なきを得たのですが、もっとお互いが納得するまで話し合いをするべきだったと後悔しました。2回目は、先の失敗を繰り返さないようかなり慎重に話し合いを進め、作業経過も詳しく報告しながらの制作でした。しかし、それで

もやはり描き始めてから絵そのものや、構図を変えて欲しいなどの要望が出てきて、なかなか作業を進められませんでした。しかも、制作は授業の合間や、放課後の限られた短い時間の中だったので、焦る気持ちも大きかったです。

細心の注意を払っていても度重なって起こる問題から逃げたくなる事もたくさんあり、本当に「仕事」の大変さを身を持って知りました。しかし、会社に勤めればこのような事はよくある事なのかもしれません。最初は落ち込んだりもしたけれど、今となってはこの様な貴重な経験を今の内に出来て本当に良かったと思っています。社会に出て同じような局面に出会ったら、看板制作で得た経験を生かして乗り越えられるようにしていきたいです。

そしていつか自分の家庭を持ち子どもが出来たら、自分の手掛けた看板の前に連れて行って、「これはお父さんが学生時代に描いた看板なんだぞ!」と、色々な思い出と一緒に胸を張って自慢してやりたいと思います。



青梅映画看板制作に参加させていただいて

江森 妙子

(造形芸術学部 造形芸術学科 4年)

私がこのプロジェクトに参加したのは、「映画看板というものを描いてみたい」という軽い気持ちからでした。しかし最初の説明会に参加してす

ぐに、このプロジェクトはとても責任が重く中途半端な気持ちでは引き受けることのできない仕事ということを理解しました。

まず看板制作の予定表を見て考えたことは、仕事を引き受けた以上どうやったら講義の合間の時間を使い、自分たちの担当になった看板を飾っていただく店舗の方に納得していただき、制作期限までに看板を終わらせることができるか。ということでした。

制作に関しては、「なるべく二人一組で組むように」ということだったので友人と二人で計4枚を担当しました。担当するにあたり私たちが注意したことは、各店舗に打ち合わせに行くときは、お店の方の意向の聞き漏らしがないように必ず2人で伺うこと。そしてなるべく多くお店に顔出しコミュニケーションをとり、心を開いてもらうということでした。

描くにあたっては1枚を2人で描くと画風がばらばらになり、まとまりが無くなると思ったので基本的には一人2枚制作しお互いに気になるところ、苦手なところをチェックしながら進めていくことになりました。

そして打ち合わせから始めてみると、看板に描ける映画が著作権の問題で1958年以前のもので決められていたので、その中でお店の方の意向を取り入れて映画の作品を決めていただき、いかに一枚の絵としてまとめていくか。というところが大変でしたが、図書館で調べたり、自分で絵のポーズをしてみても着物のしわの出来かたや関節の動きを調べたり、何枚もラフスケッチをおこして講義のない休みの日に打ち合わせを入れて何度も店舗のほうに足を運ぶということもしました。お店の方のご協力もあり、なんとか描く作品と構図が決まったときは本当に嬉しかったです。

制作にあたっては空き時間を使い制作に取り組み、自分が思った色が出ないなど色々と制作過程では考えることもありましたが、とても良い経験

になったと思います。

最後に私がこのプロジェクトで一番大切だったもの、勉強になったものというのは、看板制作前の店舗の方とのコミュニケーションだったのではないかと感じています。

制作当初、浜田屋という老舗の呉服屋さんの担当になり打ち合わせに伺ったのですが、お店の方の意向は映画看板ではなく着物の柄を前面に描いたようなものにしてほしいということでした。しかし映画看板によるまちづくりが目的ということ話し、そのことを納得していただき、こちらも昭和映画ポスター集などの本を地元の図書館で探し出し、何冊もキャリーケースに入れて何度もお店の方に打ち合わせに伺うという日々が続きました。そんな中で何度もお店のほうに伺わせていただいているうちに、大学の話題など自然にお店の方と話せるようになっていました。こちらの都合で打ち合わせにうかがう時間がどうしても17時過ぎになってしまった時など、わざわざお店を開けて待っていて下さったこともあり、とてもありがたかったのを憶えています。

私はそうした心の交流こそが今回の看板制作の中で一番大切なことであり自分たちにとっての勉強であったと感じています。そして完成した看板が青梅の町の活性化に役立ち、青梅の市民の皆様に愛されるようになってくれれば良いと思います。



江森さんが制作された看板 →

特集2：学生ボランティア活動に期待するもの

学生ボランティア活動に期待するもの

星山 麻木

(人文学部 心理・教育学科教育学専修 教授)

明星大学人文学部心理・教育学科に赴任して以来、学生たちとの関わりはボランティア活動が中心である。教育学科1年生必修科目「教育学入門」で、まず島田療育センターのボランティアを紹介する。担当する1学年約170名の学生に対して「自ら学び 自ら考え 自ら動く」という主体的な生き方を提案することになっている。

明星大学の学生は育ちが良い。おそらく多くの学生が、ご家族に大切にされてきたのではないだろうか。ボランティアに必要な「優しさ、穏やかさ」を備え、人のために労を惜しまない人柄の良さは、私利私欲におぼれる大人が多い中、貴重な存在に思えた。彼らには純粋さと素直さといったボランティアするに相応しい特別な気質の良さがある。そして、実行力は卓抜している。

今から3年前、初めての授業で自分に何が出来るか問うと翌週30名以上の1年生が、自分たちでボランティアサークルを作りたいという。この申し出には感動した。それが発達障がいの子どものための支援を行うボランティアサークル「スマイリー」である。彼らの献身的で温かい支援は地域の保護者や子どもたちに評判である。「明星大学の学生さんなら安心して任せられる。こどもたち

になくしてはならない」と多くの方から感想を伺う。学校に行きたくないという子どもも明星大学で学生さんと遊ぶのが楽しみでたまらないという。他にも「さくらんぼの会」「翼の会」など障がい児の親の会が次々、学生にボランティアを依頼している。学生の手作りクリスマス会、遊びの会など、活動の数々に共に参加したが、どれも質が高く素晴らしい。

またゼミでは五月の連休から夏休みの終わりに行われる「すかんぼ療育キャンプ」「デイキャンプ」を行う。4ヶ月の間、夜遅くまで残って、学生たちは療育プログラムのアイデアを出し合い、練習する。子どもたちやご家族と行うキャンプファイヤーは歌ありダンスあり。最後は参加者の多くが別れを惜しみ涙を流す。何のためにこんな多くの学生たちが献身的に自分の時間を使うのか。新たな出会いの感動とともに心にはボランティアならではの忘れられない温もりが残る。

今後、地域とのコラボレーションとして次々新しい企画が生まれる。現在では、多くの学生が自らサークルを作り、地域での活動を始めている。ボランティア活動を通じて、学生は豊かに大きくなっている。

関係づくりの力を磨こう！

～学生ボランティア活動に期待するもの～

吉川 かおり

(人文学部 人間社会学科 教授)

これまで、さまざまな形で学生がボランティア活動を行うことを支援してきましたが、いくつか

つまずきやすい点があるように感じています。例えば、せっかくボランティアに行ったのに申し出を断られて傷ついたとか、相手の行動や言っていることが理解できず気まずい雰囲気になったとか、介助の仕方や手伝い方が分からず困った、というものです。

最初につまずきはのちのちにも影響しますし、せっかく得た貴重な機会をネガティブな評価で終わらせないために、次の3点を心がけてみてください。

(1) この世の中を一緒に生きている「その人」に目を向けてみよう

ひとは、「常に困っている（手助けが必要な状態にある）」わけではありません。自分の申し出が断られたからといって、その人に関わろうとしたことそのものが誤りだったわけでもありません。年齢相応に、謙虚に、そして前向きに、一人の人として相手にかかわることができるかどうかを試されているのです。

(2) その人のことを「分かりたい」と思う気持ちを大事にしましょう

コミュニケーションは、キャッチボールと同じです。話の内容が分からなくても、その人の「気

持ち」を受けとめて、ボールを投げ返してあげることにはできるものです。最終的に何が言いたかったのか分からなくても、分かろうと一生懸命に努力してくれた人がいた、ということは相手の人にとっても価値ある体験です。

また、自分とは生活も価値観も違う人とかかわるのですから、自分の立場からだけでその人のありようを判断せず、まずは「ありのままの姿」を受け止めてみるのが大事です。

(3) 介助の仕方はまず本人に聞いてみましょう

介助者を使いこなすプロは、相手の方なのだと思っておくことです。分からないことがあったら、まず「いつも、どうしているのですか？」「私がやってもいいですか？」と聞いてみることです。また、支援者に留意事項を聞いておくことも役立ちます。

つまり、ボランティア活動とは自分の対人関係づくりの力が試される場でもあるということです。どういうパターンの時に自分は苦手意識をもつのか、もしくは充実感をもつのか、それをよく考えて自分の人間関係作りの特徴を把握していくと、よりよいボランティア活動が展開できると思います。

重度身体障害者とともに俳句づくり

大貫 美智子

(明星大学日野校 教務企画課)

七年前から日野市重度身体障害者施設「東京日野療護園」で句会を開いています。

「日野療護園」は、脳性麻痺等の障害者が50名おり、その障害者の入浴（職員も一緒に入浴）、食事、排泄等を補助する職員と生活をともにしています。療生は、顎や人差し指、右足の親指と第2指だけで、活かせる機能を働かせて車椅子を作動。職員は障害の方の全てを受けとめて手足となっています。

その日野療護園で、私の趣味である句会を開いています。句友は、障害の方3名（西村留利さん、竹田麻美さん、菰田真由美さん）と私達7名が加わった小さな句会です。

西村留利さん、竹田麻美さん、菰田真由美さんは、言葉をすぐに表現できません。身を捻り、汗をかき、唾を飛ばしながら発する音を私達が聞き取り、文字にしています。しかも、私たちは彼女達の言葉が一度では判らず、何度も聞きなおし、

私達が聞いた言葉を再度3人の方に確認するなど言葉のキャッチボールをしながら句にしています。

そして、やっとできた一句に涙してしまいました。皆さんが、自分達を背負ってくれた母親や、兄弟、姉妹へ詠む句が多かったからです。母親や、兄弟、姉妹へ感謝の思いがほとぼしり出たようでした。

盆踊り姉の背中で踊りけり るり
母の背で線香花火楽しめり 麻美
母の背で眠りしことや星祭 真由美

そして、負ぶさるの句ばかりが長いこと続きました。句作を身の周りから四季の自然へと視野を開けていただこうと、個室の窓からの庭の様子や園の行事、又は、車椅子で散歩中の事等を、少し具体的に尋ねることにしました。新しい題材に試行錯誤する療生と私たちとのコミュニケーションは楽しいひと時となります。

緑陰で作る俳句や風渡る るり

言葉のひとつひとつをどこまで汲み取って渡せていけているのかは疑問もありますが、納得すると嬉しそうに頷き、そうでない時は、首を横に振ってくれます。時間を要するので、定例会前はゆったりとした新しい気持ちをもって接し、「素直」な句作づくりの態勢に入ります。

新しき部屋に移りて柿吊るす るり
一年生かたかた音すランドセル 麻美
百草園近くて遠き梅の園 真由美

私も、自然を見つめる俳句づくりで人生を豊かにしてきました。その歓びが療生に伝わり感激しています。十分な喜びを抱いている私ですが、この度、東京都社会福祉協議会会長より団体部門（木の実俳句会）で感謝状を賜りました。思ってもみなかったこのような機会に恵まれまして本当に光栄です。これからも仲良く木の実俳句会一同躍動し続けて参ります。

学生の活動現場から

「ひまわり」のその後

ひまわり代表 中村 翔子

(人文学部 心理・教育学科教育学専修 3年)

ひまわりは、去年の9月にできたボランティアサークルです。9月末から毎月2回、七生福祉園の低年1寮で活動しています。主な活動内容は、歌、工作、絵本読み聞かせ、パラシュート、体操などです。歌、工作、体操は学生が考えたオリジナルのものを行っています。

ひまわりを立ち上げた当初は、活動をするといってもどんな事したら良いのかわからず、なかなか良い案も出てこなかったのですが、活動の回数を重ねるにつれ活動の様子や方向性が見えて

きたので、活動内容も考えやすくなりました。活動内容のバリエーションが増えるにつれて様々な問題も出てきましたが、それらの問題については毎週行っているミーティングにおいて学生で話し合い、解決し、その後の活動に生かしています。学生の話し合いだけで解決できない部分については、低年1寮の職員の方々との話し合いの場を設け、アドバイスをいただいたりしています。低年1寮の職員さんとの連携を密に取る事により、これからもひまわりの活動を継続していけ

るようにしたいと思っています。また、最初の活動では学生も子どももどこかぎこちないところがありました。段々とお互いの顔や名前を覚え始め、いつのまにかぎこちなさもとれ、学生も子ども達も活動を楽しみ、また、充実した時間を過ごしています。

去年（特に10月から12月）は、ひまわりが躍進した年でもありました。10月にきらきらボランティアセンターで行われた学生ボランティア発表会に出席し、ひまわりの活動報告をさせていただいた際に、読売新聞の記者の方がひまわりに興味を持ってくださり、後日インタビューを受け、ひまわりについての記事が読売新聞多摩版の朝刊に掲載されました。また、12月にはソニーマーケティング学生ボランティアファンドの審査を通過し、Bコース（10万円以下の助成金）に入選することができました。ソニーマーケティング学

生ボランティアファンドとは、ソニーマーケティング株式会社が主催する学生ボランティアを支援する制度で、入選すると助成金をもらう事ができます。

ひまわりを立ち上げてから4ヶ月、ここまでやってこられたのも、成果をあげることができたのも、きらきらボランティアセンターの職員の方々、低年1寮の職員の方々、ひまわりのメンバー、他のボランティアサークルの方々の支えがあったからこそだと思っています。今後はひまわりの活動に加え、きらきらボランティアセンターでの活動報告会やソニーマーケティング学生ボランティアシンポジウムなどに参加を予定しています。これからも色々な事があると思いますが、子ども達に“楽しい！”“おもしろい！”と感じてもらえるような活動ができるように頑張っていきたいと思っています。

~~~~~

## きらボの勤労奨学生たち

### ◆小川 翔平（人間社会学科4年）

心で想っていることを、実際に行動に移すというのは、難しいものだと思います。例えば、何か言いたい事があっても、緊張して言葉にできないことがあります。しかし、想っていることは、言わなければわからないので、何とかして勇気を出して想いを伝えることが大切ですね。このような勇気を出し、心を形に変えるのが、ボランティアにおいて大切な作業なんだな、と最近考えています。あるノーベル平和賞受賞者は、戦場での負傷者を見て、心に衝撃を受け、赤十字社という形を残しました。

明星大学はボランティアの心の基礎がある大学で、それはサークルという形で結晶化されています。エコキャップ活動は、サークルの枠組みを越え、大学全体を良い方向に巻き込みつつあります。これは素晴らしいことだと思います。

こういう心と形がさらに創られるように、私も勤労奨学生として、ボランティアセンターの宣伝活動など、積極的に提案させてもらいたいです。

### ◆吉野 中（心理学専修4年）

勤労奨学生としてボランティアセンターに所属してから数ヶ月しか経っていませんが、明るい雰囲気の中で、さまざまな体験をさせていただいています。

明星大学はボランティアを志向する学生が多く、そのような学生たちのサークルや個人の活動をサポートできることにやりがいを感じながら毎回作業をしています。

きらボは4月で開設1周年になるということで、記念シンポジウムが開催されます。ボランティアセンターは開設して間もなく、試行錯誤しながらの運営・拡充といった感じですが、今回のシンポ



ジウム開催からも明星大学が持つ潜在力、つながりの大きさが伺えます。私たち勤労奨学生は、きらボがその力を十分に発揮させる媒体となるよう、学生としての視点から、訪れる人たちに喜んでもらえる場所の基盤を作って行きたいと思えます。

#### ◆柳田 大地（経営学科3年）

私は勤労奨学生としてこのボランティアセンターに配属が決まったとき、ボランティアセンター？といった感じで存在すらも知りませんでした。聞くところによると今年度新設された部署であるとのこと。いったいどんな場所なのかという思いを持ちながら勤務を始めました。やはりとい

うか新設された部署のため試行錯誤の真っ最中で、改善点もたびたび見つかります。しかし、そういった新設という環境はなかなか経験できることではないので有意義に勤務させていただいています。

ボランティアセンターなのでここでひとつボランティアの話をとったのですが、実は私今までボランティアというものを意識した活動をしたことがありません。ただ、私自身ボランティアセンターに配属され、所属している児童文化研究会というクラブも学内ボランティア団体に登録しましたので、今後ボランティアに接する機会が増えてくると思いますのでできる範囲で関わっていこうと思います。

## 共に学ぶキャンパスづくり

### ～ノートテイク講習会～

畑野 理美

（明星大学ボランティアセンター）

皆さんは、ノートテイクという言葉を知っていますか？ノートテイクとは、聴覚に障がいのある学生さんと一緒に講義に出て隣に座り、先生が話した内容や周囲の音声情報を文字にしてわかりやすく伝える技術のことです。「筆記通訳」「要約筆記」とも呼ばれています。ノートテイクを行う人のことをノートテイカーといいます。基本的に1コマの講義に2名のノートテイカーが派遣され、学生の両隣に座って、15分から20分交代でノートテイクをします。普段、講義中にとるノートは、講義の重要なポイントをまとめて記録するものですが、ノートテイクは「今、何が話されているか」をリアルタイムにノートに書いて伝える、「文字による通訳」です。聴覚障がい学生は、聞こえる学生と同様、ノートテイクされた情報を見ながら、自分のノートをまとめたり、板書を写して講義に参加します。ノートテイクは手話通訳と違い、文字で書いて伝えるため、簡単

にできるものと思われがちですが、話し言葉の速度はアナウンサーで1分間に350～400文字程度。これに対して書く早さは70文字程度です。ノートテイクによって伝えることのできる情報は、話されている内容の1/5に過ぎないということになります。パソコンによるノートテイクもあり、パソコンでは1分間に100文字以上打てます。講義者の話を正確に聞き取り、理解し、要点をつかみ、言葉を選び、通じる文章にし、文字に書きながら聴覚障がい学生に伝わったかどうか確認するという一連の動作を何重にも並行して行わなければならないため、やはり特別な技術と訓練が必要です。ですから、日々の簡単なサポートの場合は、クラス内で助け合って行うことができますが、講義のように高度で専門的な内容を扱う場合には、それに見合った技術訓練が必要とされます。現在、通信教育課程のスクーリングでは、ノートテイク支援が実施されていますが、通学課程では実施さ





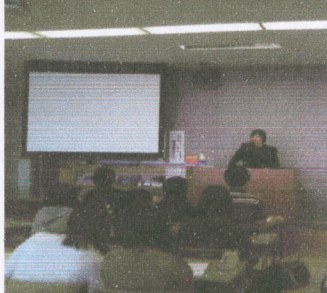
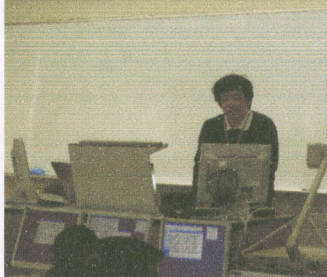
れていません。しかしこれから、明星大学で共に学ぼうと意欲を持って入学された方が、障がいを持っていて、ノートテイクを必要とする可能性があります。情報保障として、聞こえる学生と同じように、先生の冗談や雑談、まわりの学生の話など、講義の本筋に関係ない情報であっても省略されることなく伝えられる必要があります。共に明星大学で学ぶ学生として、聴覚障がいについて理解し、必要なサポートすることは、とても価値のある大切なことです。

明星大学ボランティアセンターでは、多摩市要約筆記サークルの相馬暁美先生、後藤進先生にお越しいただいて、9月18日、22日にノートテイク

クガイダンス、「ノートテイクとは?」、10月15日にノートテイク1日講習会、12月13日には、パソコン教室を使ってパソコンノートテイク講習会を実施しました。講習会を修了された31名の方は、ボランティアセンターのノートテイク支援スタッフとして登録されています。今は、ノートテイクを必要とされる方はいらっしゃいませんが、実施されることになれば、今登録されているノートテイクでは十分とはとても言えません。

そのためにも、ノートテイク講習会を受講し、ノートテイクとなり、共に学ぶキャンパスづくりをめざしましょう。

### ノートテイクの三原則「速く 正しく 読みやすく」

| 実施日・会場                                            | 様子                                                                                  | 内容・講師                                     | 参加者 |
|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----|
| 9月18日(木)<br>14:00-15:30<br>ボランティアセンター<br>22号館203  |   | ガイダンス「ノートテイクとは?」<br>多摩市要約筆記サークル<br>相馬暁美先生 | 12  |
| 9月22日(木)<br>14:00-15:30<br>ボランティアセンター<br>22号館203  |  | ガイダンス「ノートテイクとは?」<br>多摩市要約筆記サークル<br>後藤進先生  | 16  |
| 10月15日(木)<br>10:00-16:00<br>ボランティアセンター<br>22号館203 |  | ノートテイク1日講習会<br>多摩市要約筆記サークル<br>相馬暁美先生      | 25  |
| 12月13日(木)<br>14:00-17:00<br>パソコン教室<br>26号館407教室   |  | パソコンノートテイク講習会<br>多摩市要約筆記サークル<br>後藤進先生     | 10  |



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 明星大学ボランティアセンター（きらボ）の活動内容のご紹介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

明星大学ボランティアセンター（愛称：きらきらボランティアセンター、略称：「きらボ」）は、本学が有する知識・技術・人材等を活用して、学内外から要請される福祉・教育・環境・災害等のニーズに対し、ボランティア精神をもって積極的に応え、社会貢献することを目指しています。ここでは、当センターの活動内容をご紹介します。

### 1. ボランティア募集の情報を提供しています。

ボランティアセンターには、多摩地域を中心に全国各地からボランティア募集情報がたくさん届きます。福祉・教育・環境保護・まちづくり・国際協力など、分野もさまざまです。

また、ワークショップや講演会・映画会などのお知らせも来ます。センターの掲示板で、これらの情報を閲覧できます。

### 2. ボランティアに関する相談を受けつけています。

ボランティア活動の探し方、参加するに当たって不安なこと、よくわからないこと、注意点など、センターのスタッフが相談にのります。気軽にご相談下さい。

### 3. ボランティア活動をしている学生の支援をしています。

ボランティア活動をしている学生や学生団体に対して、相談や交流、活動発表会などを通じて、支援しています。また、センターの学生ボランティアスタッフとしての活動の場を提供しています。

### 4. ボランティア活動に関する講座やセミナーなどを開催しています。

各種ボランティア講座（ノートテイクボランティア講座を含む）を企画・開催したり、地域におけるボランティア活動プログラムを企画・実施します。

### 5. 近隣の地域や学校などとの連携・協働を推進します。

地域のさまざまなボランティア・市民活動団体、施設・学校などとネットワークを構築し、さらにボランティアセンターなど中間支援組織と連携・協働していきます。



\*\*\*\*\*

## ☆センター活動報告☆

ここでは2008年11月以降の本センターの主な活動と、学生教育ボランティア参加者数、ボランティアセンター団体登録の状況について報告します。

### 2008年11月からの主な活動

| 月   | 日  | 行事等                                                                 |
|-----|----|---------------------------------------------------------------------|
| 11月 | 1  | きらぼ通信創刊号発行                                                          |
|     | 1～ | 2008星友祭。「きらぼ」にてI研、めばえの会が、マイはし作り、車椅子体験を実施                            |
|     | 3  | 3日間で、来室200名                                                         |
|     | 4  | 大学周辺清掃活動（I研・めばえの会有志）                                                |
|     | 10 | 「立教大学ボランティアセンター（池袋キャンパス）」訪問                                         |
|     | 11 | 「第4回ボランティアセンター運営委員会」「第4回学生ボランティアグループ会議」開催                           |
|     | 20 | 2008年度学生教育ボランティア（社）学術・文化・産業ネットワーク多摩<br>参加者55名（3次通年延べ人数）参加大学1位/13大学中 |
|     | 21 | 日野市社会福祉協議会「障害者施設職員交流会部会会議」出席                                        |
|     | 22 | 「東京都七生福祉園」訪問 「ひまわり」活動                                               |
| 12月 | 3  | 多摩市「都立多摩桜ヶ丘学園 島田分教室」来室                                              |
|     | 5  | 日野市社会福祉協議会「障害者施設職員交流会部会会議」出席                                        |
|     | 9  | 「めばえの会」VCでミーティング                                                    |
|     | 10 | 「ひまわり」VCでミーティング                                                     |
|     | 12 | 「第5回学生ボランティアグループ会議」開催                                               |
|     | 13 | ノートテイク講習会（PC）                                                       |
|     | 17 | 「ひまわり」VCでミーティング                                                     |
|     | 27 | 「ひまわり」第8回ソニーマーケティング学生ボランティアファンド入選                                   |
| 1月  | 8  | 世田谷区「移動ネット」来室、日野市社会福祉協議会「障害者施設職員交流会部会会議」出席<br>「日野市VC」訪問             |
|     | 16 | 「日野療護園」来室                                                           |
|     | 19 | 世田谷区「移動ネット」来室                                                       |
|     | 21 | 「日野市環境保全課」来室                                                        |
|     | 23 | 「第5回ボランティアセンター運営委員会」「第6回学生ボランティアグループ会議」開催<br>「明星学苑報」取材 4月号に掲載       |
|     | 24 | 「日野市VC」訪問                                                           |
|     | 25 | 「VC年末大掃除」I研、めばえの会、有志14名参加                                           |
| 2月  | 6  | 日野市社会福祉協議会「障害者施設職員交流会部会会議」出席                                        |
|     | 23 | 人文学部人間社会学科入学前教育 学内施設見学 来室者54名                                       |
|     | 27 | 「明星小5年生と大学生 落ち葉堆肥作りに挑戦」 2/28毎日新聞朝刊多摩版に掲載                            |



|    |                                          |                                                                                      |
|----|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月 | 28                                       | 「めばえの会」VCでミーティング                                                                     |
|    | 31                                       | 青梅校学生日野校見学 来室者 10名                                                                   |
|    | 3                                        | 「ボイス劇団カルミアカインドボイス」VCでミーティング                                                          |
|    | 6                                        | 日野市社会福祉協議会「障害者施設職員交流会部会会議」出席                                                         |
|    | 8                                        | 明星大学学友会青梅 蒼星祭実行委員会が「おうめ市民ふくし祭」にて青梅市社会福祉協議会より感謝状を授与                                   |
|    | 11                                       | 「日野市国際交流会」来室                                                                         |
|    | 16                                       | 日野市「ふだん着でCO2をへらそう」宣言事での学生V募集説明VC開催、参加者10名<br>「第6回ボランティアセンター運営委員会」開催                  |
|    | 17                                       | 「普通救急講習会」実施 講師：東京救急協会 受講者：10名（教育研究部ほか）                                               |
|    | 19                                       | 「明輝栄誉賞」受賞 ボランティアセンター学内登録団体：児童文化研究会「人形劇団まめ」、Idear 研究会、ひまわり、ボランティアサークル「SMILY」、へき地教育研究会 |
|    | 23～                                      | 日野市地球温暖化対策「ふだん着でCO2をへらそう」宣言へ協力 事務局：日野市環境保全課                                          |
|    | 29                                       | 明星大学学生：延べ27名参加                                                                       |
|    | 24                                       | 「めばえの会」VCで卒業生を送る会<br>「第2武蔵野台自治会協議会」へご挨拶                                              |
|    | 27                                       | 「八王子市立川口中学校」 大矢芳生校長来室、「朝日キャンプ」VCでミーティング                                              |
| 30 | 日野市「日野療護園」訪問 心理・教育学科有志7名 コーラス スプリングコンサート |                                                                                      |
| 31 | 「日野市環境保全課」来室                             |                                                                                      |

#### 08年度学生教育ボランティア参加者数（延べ人数）

|          |     |
|----------|-----|
| 第1次（4月）  | 19名 |
| 第2次（6月）  | 18名 |
| 第3次（10月） | 18名 |
| 合計       | 55名 |

注：「学生教育ボランティア」； 社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催している。ネットワーク多摩に加盟している多摩地域の40大学が、加盟行政の小・中学校の教育現場で「お兄さん・お姉さん」先生として授業のサポートやクラブ部活の補助などをしてくれる大学生の事です。

#### ◆ボランティアセンター登録団体（2009年3月末現在）

|    |      |                                                                                                                                                                            |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学内 | 10団体 | ①教育研究部      ②ボランティアサークル「めばえの会」<br>③初等教育研究会 どんこの会      ④ボランティアサークル「SMILY」<br>⑤I dear 研究会      ⑥朝日キャンプ      ⑦ひまわり<br>⑧へき地教育研究会      ⑨児童文化研究会「人形劇団まめ」<br>⑩明星大学ごみ拾いサークル『サンクス！』 |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|    |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学外 | 30 団体 | ①障害児放課後活動クラブオンリーワン（府中市八幡町） ②NPO 法人 Filo（多摩市落合）<br>③NPO 法人 Hope Scoop Asia（福生市本町） ④「めばえ」の会（青梅市新町）<br>⑤コシヒカリの郷南魚沼市自然体験村実行委員会（新潟県魚沼市六か町） ⑥日の出町ボ<br>ランティアセンター（西多摩郡日の出町） ⑦NPO 法人日本子守唄協会 東京多摩支部（福<br>生市加美平） ⑧社会福祉法人武蔵野会 すぎな愛育園（八王子市台町） ⑨ひの市民<br>活動団体連絡会[ひの市民活動支援センター]（日野市日野） ⑩日野市立つばさ[自立訓<br>練・就労]（日野市旭が丘） ⑪日野市立やまばと[地域活動支援]（日野市旭が丘）<br>⑫NPO 法人なかよし会 なかよしクラブ（三鷹市牟礼） ⑬あさやけ作業所（小平市小川）<br>⑭NPO 法人全国移動サービスネットワーク（世田谷区船橋） ⑮ひの炭やきクラブ（町田<br>市小山町） ⑯水と緑の日野・市民ネットワーク[みみネット]（日野市日野本町）<br>⑰児童擁護施設れんげ学園（東大和市芋窪） ⑱都立多摩桜ヶ丘学園 島田分教室（多摩<br>市中沢） ⑲社会福祉法人 東京光の家（日野市旭が丘） ⑳社会福祉法人 夢ふうせ<br>ん 工房夢ふうせん（日野市旭が丘） ㉑東京都 日野療護園（日野市落川）<br>㉒日野市 環境情報センター（日野市日野本町） ㉓東京 YWCA 国領センター（調布市国領<br>町） ㉔社会福祉法人共働学舎（町田市小野路町） ㉕日野市国際交流協会（日野市本町）<br>㉖NPO 法人 ふみ月の会（調布市布田） ㉗立川市青春学級（立川市柴崎町）<br>㉘あきる野市社会福祉協議会 市民活動推進係（あきる野市平沢） ㉙VFM 東京（青梅市）<br>㉚いきいきふれあいフェスティバル実行委員会（青梅市今寺） |
|----|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

◆明星大学ボランティアセンター運営委員会の構成（2009年3月末現在）

| 役 職               | 氏 名                                      | 所 属                                                                                     |
|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| センター長             | 渡戸 一郎                                    | 人文学部 人間社会学科 教授                                                                          |
| 副センター長（日野校）       | 吉澤 秀二                                    | 理工学部 環境システム学科 教授                                                                        |
| 〃（青梅校）            | 菱山覚一郎                                    | 一般教育（青梅校）社会科学 准教授                                                                       |
| 学生部長              | 小鍛冶徳雄                                    | 理工学部 電気電子システム工学科 教授                                                                     |
| センター長が必要と認め<br>る者 | 垣内 国光<br>島田 博祐<br>黒岩 誠<br>富田 一弘<br>百木 英明 | 人文学部 人間社会学科 教授<br>人文学部 教育学専修 准教授<br>人文学部 心理学専修 教授<br>日野校 事務局次長兼学生課長<br>青梅校 事務局次長兼青梅教学課長 |
| 事務局長              | 荒井 徹                                     |                                                                                         |
| 専任職員              | 宮崎 茂男<br>畑野 理美<br>増田 知宏                  | 日野校 ボランティアセンター課長兼務<br>日野校 ボランティアセンター<br>青梅校 教学課学生担当                                     |
| オブザーバー            | 石田健太郎                                    | 人文学部 人間社会学科 福祉実習指導員                                                                     |



